

平成 22 年 度

高等学校新入生徒の学力に関する研究（英語）

本研究会では、愛知県高等学校英語教育研究会と共同で、毎年県内の参加を希望した高等学校において、その新入生徒を対象に英語学力調査を実施し、結果の集計・分析及び考察を行っている。

この研究は、以下の内容で、本年度分についてまとめたものである。

- (1) 調査の趣旨，調査の実施及び処理，調査結果の概要，分析結果の概要
- (2) 統計資料（人数，平均点及び標準偏差，学校平均点の分布状況，設問別正答率）
- (3) 問題別の考察（問題のねらい，問題文，小問別正答率，誤答分析）及び指導上の留意点

<検索用キーワード>

英語 中学校 高等学校 学力調査 中高連携 正答率 誤答分析 平成 22 年度

研 究 会 委 員

愛知県立中村高等学校教諭	武田尚士
愛知県立日進高等学校教諭	杉山一朗
愛知県立東郷高等学校教諭	関友彦
愛知県立衣台高等学校教諭	森藤真言
愛知県立豊田高等学校教諭	磯貝和彦
愛知県立岡崎北高等学校教諭	広瀬八重子
愛知県立高浜高等学校教諭	木下哲
愛知県立福江高等学校教諭	稲垣典子
愛知県総合教育センター教科研究室長	川澄誠（主務者）

目 次

1 調査の趣旨	56
2 調査の実施及び処理	56
3 調査結果の概要	57
4 分析結果の概要	57
5 統計資料	58
6 問題別の考察及び指導上の留意点	61

1 調査の趣旨

愛知県総合教育センターでは、この学力調査を愛知県高等学校英語教育研究会と共同で、昭和 29 年以来継続して実施し、平成 22 年度で 57 回目となる。対象は、参加を希望する愛知県内の国・公・私立高等学校の新入学生徒である。調査結果の集計、分析及び考察を行い、新入学生徒の英語学力の実態と推移を把握するとともに、主に次の資料を得ることを目的としている。

- (1) 中学校と高等学校の連携資料
- (2) 高等学校第 1 学年における指導上の参考資料

2 調査の実施及び処理

調査の実施は、愛知県高等学校英語教育研究会が担当し、調査問題の作成、報告書（調査結果の統計処理及び考察）の作成は、当センターに研究会を設置して行った。

(1) 実施の時期

平成 22 年 3 月下旬から 4 月上旬までの間に、各参加校において実施した。

(2) 実施状況

課程	年度	平成 22 年度		平成 21 年度		平成 20 年度		平成 19 年度	
	学科数	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数
全 日 制	普通科	107	27,644	114	28,309	108	27,248	111	27,113
	総合学科	5	1,237	5	1,199	4	957	4	956
	商業科系	7	559	9	918	9	916	9	912
	家庭科系	12	698	13	778	10	630	10	637
	英語科系	4	178	3	150	3	153	4	169
	他の学科	11	734	11	661	10	570	11	768
定時制		0	0	0	0	0	0	0	0
合計		146	31,050	155	32,015	144	30,474	149	30,555

(注意 1) 表中の校数は参加した学科・コース数を表す。

(注意 2) 「他の学科」は、農業科、工業科、福祉科、音楽科等である。

(3) 問題作成上の留意事項

本調査は、高等学校新入学生徒を対象とするものであり、高等学校での学習内容を理解するために必要とされる基本的事項の習得状況を調査し、各学校において指導計画を作成する際の参考資料を提供することを目的にしている。このために、中学校での既習事項がどの程度定着しているかを、言語の領域ごとに調査した。

問題作成に当たっては、次の点に留意した。

- ア 中学校学習指導要領に示された内容の範囲を超えないこと。
- イ 明確な調査目標をもった問題内容であること。
- ウ 言語材料については、現在愛知県内の公立中学校で採用されている教科書（NEW HORIZON English Course 1, 2, 3 東京書籍）の範囲を逸脱しないものとする。

(4) 調査統計事項

学力調査参加校には、次の事項について回答を求めた。

- ア 平均点
- イ 得点分布表
- ウ 小問ごとの正答者数（各校人数の 10%を抽出）
- エ 聞き取りテスト実施状況

3 調査結果の概要

〔表 1〕は、調査対象 31,050 名の個人得点を 10 点幅の得点分布に分けて、全体及び学科別の平均点及び標準偏差をまとめたものである。

個人得点の分布（平均点及び標準偏差）

〔表 1〕

得点域	-90	-80	-70	-60	-50	-40	-30	-20	-10	9-0	合計	平均
全体	3,814	5,192	4,841	3,949	3,204	2,803	2,359	2,460	2,152	276	31,050	60.8
%	12.3	16.7	15.6	12.7	10.3	9.0	7.6	7.9	6.9	0.9	標準偏差	25.0
普通科	3,712	5,069	4,590	3,581	2,810	2,300	1,797	1,888	1,663	235	27,644	63.0
%	13.4	18.3	16.6	13.0	10.2	8.3	6.5	6.8	6.0	0.9	標準偏差	24.5
総合学科	12	47	100	147	167	197	214	195	147	11	1,237	43.9
%	1.0	3.8	8.1	11.9	13.5	15.9	17.3	15.8	11.9	0.9	標準偏差	20.5
商業科系	5	13	39	63	70	95	121	99	51	2	559	42.9
%	0.9	2.3	7.0	11.3	12.5	17.0	21.6	17.7	9.1	0.4	標準偏差	19.0
家庭科系	2	8	42	78	86	100	114	128	127	13	698	38.9
%	0.3	1.1	6.0	11.2	12.3	14.3	16.3	18.3	18.2	1.9	標準偏差	19.7
英語科系	75	33	24	15	11	10	5	0	5	0	178	78.2
%	42.1	18.5	13.5	8.4	6.2	5.6	2.8	0.0	2.8	0.0	標準偏差	20.1
他の学科	8	22	46	65	60	101	108	150	159	15	734	37.8
%	1.1	3.0	6.3	8.9	8.2	13.8	14.7	20.4	21.7	2.0	標準偏差	21.3

4 分析結果の概要（詳細分析は、6「問題別の考察及び指導上の留意点」に掲載）

ここでは、平成 22 年度学力調査結果に見られる新入学生徒の学力の傾向を各項目ごとにまとめた。

(1) 語彙力（【1】発音問題 正答率 48.5% 【2】語彙問題 正答率 54.0%）

ア 日本語は「子音+母音」で音が成り立っているので、英語における子音だけの音に意識を向けることができない。

イ なじみのある単語であっても、正確につづることができない。

(2) 文法の知識（【3】文法・語法問題 正答率 67.2% 【4】文法・表現問題 正答率 66.8%）

ア 後置修飾における現在分詞と過去分詞の使い分けができない。

イ 現在完了や受動態に関する知識はあるが、その場面で動詞を適切に用いることができない。

(3) 口語表現（【5】口語表現問題 正答率 76.7%）

ア 電話の場面における定型表現やあいさつの表現は定着している。

イ 話し手の意図を読み取りながら、対話の展開を正しく理解して応答することが苦手である。

(4) 表現力（【6】整序・作文問題 正答率 56.3%）

主語に付く後置修飾（接触節）を理解できない。

(5) 読解力（【7】長文読解問題 正答率 62.3%）

文章に込められている書き手の意図や登場人物の心情まで深く読み取ることができない。

(6) 聞き取りの力（【8】聞き取り問題 正答率 50.6%）

前後関係を表す言葉を手掛かりにして、聞き取った情報を整理して理解することができない。

5 統計資料

(1) 人数、平均点及び標準偏差

〔表2〕は、人数、平均点及び標準偏差の推移をまとめたものである。平成22年度は、昨年度と比較して、調査校全体で平均点は4.2点上昇し、標準偏差は3.6ポイント上昇している。

〔表2〕

年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
人数	34,348	34,044	33,233	31,004	29,980	30,555	30,474	32,015	31,050
全体	58.7	60.7	61.1	65.0	65.6	60.1	54.9	56.6	60.8
標準偏差	23.6	24.4	22.2	23.1	22.7	22.4	23.2	21.4	25.0
普通科	60.3	62.5	62.5	66.8	67.4	62.0	57.1	58.5	63.0
標準偏差	23.3	24.1	22.0	22.7	22.3	22.0	22.7	21.2	24.5
総合学科						42.1	35.1	42.7	43.9
標準偏差						17.3	16.0	15.9	20.5
商業科系	37.9	39.0	44.4	49.5	47.9	43.6	34.3	40.9	42.9
標準偏差	17.3	17.4	15.5	17.5	16.7	15.3	15.0	14.1	19.0
家庭科系	41.6	42.4	42.7	46.7	48.7	43.7	37.0	40.3	38.9
標準偏差	19.5	19.9	17.2	19.3	20.3	18.4	15.5	15.9	19.7
英語科系	77.1	74.3	76.9	87.5	88.0	77.0	74.5	71.8	78.2
標準偏差	19.2	22.4	17.5	11.1	10.1	15.8	18.5	17.6	20.1
工業科系	48.2	52.6	52.3	54.8	48.4				
標準偏差	17.6	20.0	16.8	18.7	19.3				
他の学科	42.2	44.0	44.3	47.2	48.5	42.0	31.1	35.0	37.8
標準偏差	20.0	21.1	18.7	20.3	20.6	20.1	19.4	19.3	21.3

(注意1) 平成18年度以前の「総合学科」及び平成19年度以降の「工業科系」は、「他の学科」に含まれる。

(注意2) 平成21年度については、約10年前の生徒の学力との比較のため、平成11年度を中心とした過去の問題を使用した。

(2) 平成22年度 学校平均点の分布状況

〔表3〕は学校平均点の分布状況をまとめたものである。同一学科の学校間で相当の得点差が見られる。なお、普通科における学校平均点較差(最高点-最低点)は、78.1点(最高点93.8-最低点15.7)となっている。(〔表4〕)

学校平均点の分布状況

〔表3〕

得点域	~90	~85	~80	~75	~70	~65	~60	~55	~50	~45	~40	~35	~30	~25	~20	~15	~10	~5	合計
全体	6	5	9	9	8	13	11	13	8	11	11	10	6	6	12	5			143
普通科	5	5	8	9	8	9	10	9	5	8	5	6	3	2	9	3			104
総合学科								2				2		1					5
商業科系								1	1	1	3		1						7
家庭科系								1	2	1	3	1	1	1	1	1			12
英語科系	1		1			1	1												4
他の学科						3				1		1	1	2	2	1			11

(注意) 人数10名以下の学校(学科, コース)は含まれていない。

普通科における学校平均点較差(最高点-最低点)の推移

〔表4〕

年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
得点差	74.4	76.1	74.3	76.7	76.3	74.0	72.1	72.4	78.1

(3) 設問別正答率 (%) (過去との比較)

【表5】は抽出答案による設問別正答率を年度ごとにまとめたものである。年度により出題内容や難易度が異なるため、単純な数値の比較は困難であるが、今年度は、過年度と比較して設問【4】文法・表現の正解率がやや高く、【8】聞き取りの正答率が低いことが分かる。

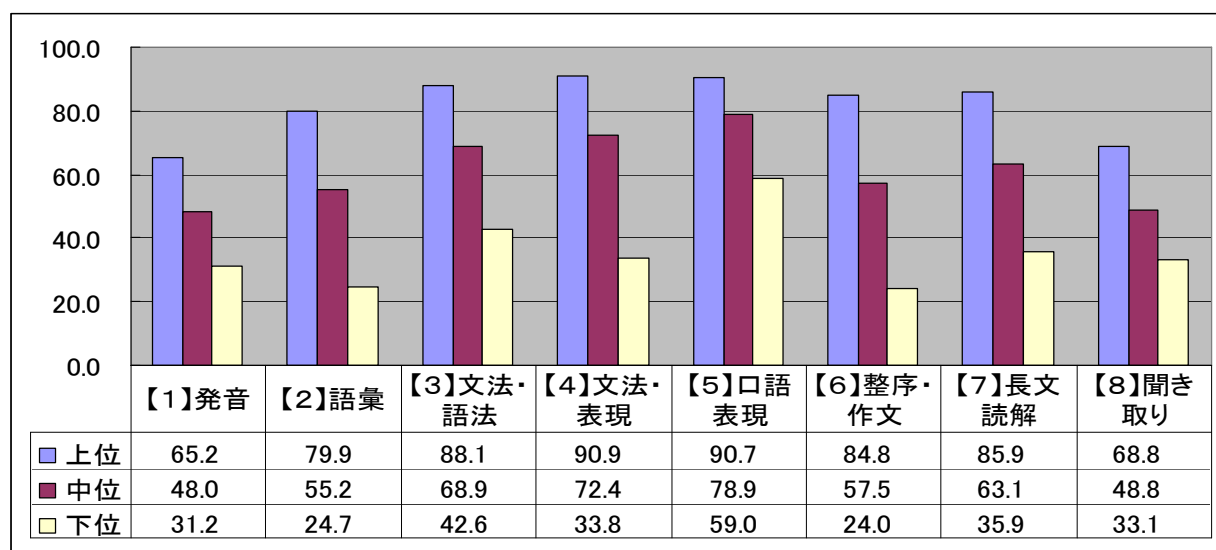
設問別正答率 (%) の推移 (過去との比較)

[表5]

年 度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
抽出人数	3,686	3,515	3,407	3,182	3,075	3,108	3,102	3,252	3,158
設問 全体	58.7	60.7	61.1	65.0	65.6	60.1	54.9	56.6	60.8
【1】発音	45.2	48.0	62.0	60.4	43.6	63.9	54.2	53.3	48.5
【2】語彙	59.3	45.0	47.9	62.6	58.7	59.6	44.5	53.0	54.0
【3】文法・語法	65.0	70.5	70.1	71.6	71.3	57.3	71.1	55.5	67.2
【4】文法・表現	60.6	54.3	58.3	61.5	63.9	54.4	49.4	42.6	66.8
【5】口語表現	61.1	77.1	82.6	86.3	89.9	62.4	67.6	86.4	76.7
【6】整序・作文	45.0	57.7	48.7	62.7	55.9	54.6	49.1	42.8	56.3
【7】長文読解	60.3	69.9	58.0	61.5	65.3	61.5	51.5	54.8	62.3
【8】聞き取り	64.4	58.4	67.6	53.3	79.0	65.7	52.7	72.1	50.6

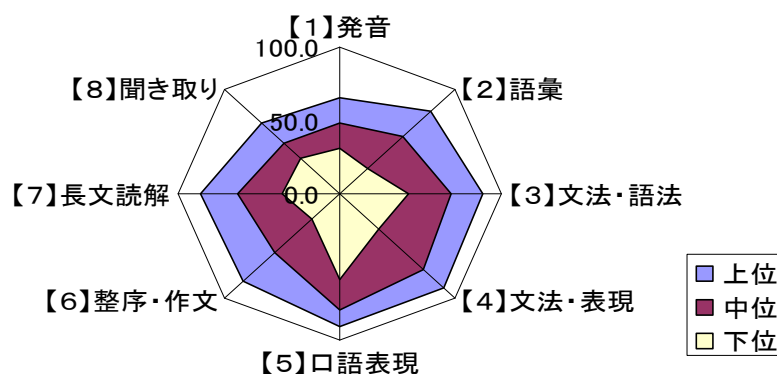
(2) 平成22年度設問別正解率 (上位・中位・下位層の比較)

【図1】は、調査校146校(学科・コース)から抽出した3,158名中の学校平均点上位32校(偏差値55以上)に所属する1,024名(上位層)、学校平均点中位53校(偏差値45以上55未満)に所属する1,183名(中位層)及び学校平均点下位61校(偏差値45未満)に所属する951名(下位層)の設問別正答率をグラフにしたものである。



設問別正解率 (%) (上位・中位・下位層の比較)

[図1]



設問【2】語彙、【4】文法・表現及び【6】整序・作文といった記述式の問題で各層の差が大きく、特に下位層の正答率が低い。設問【1】発音及び【8】聞き取りでは、各層の差は比較的大きくない。

6 問題別の考察及び指導上の留意点

(1) 発音問題

出題のねらい：母音及び子音の正しい識別を測る。

【1】 次の(1)～(5)の語について、下線部の発音が同じものをア～エから一つずつ選び、記号で答えなさい。

- | | |
|----------------------|--|
| (1) <u>head</u> | [ア <u>already</u> イ <u>great</u> ウ <u>idea</u> エ <u>please</u>] |
| (2) <u>character</u> | [ア <u>cheap</u> イ <u>lunch</u> ウ <u>school</u> エ <u>teacher</u>] |
| (3) <u>winter</u> | [ア <u>children</u> イ <u>kind</u> ウ <u>ride</u> エ <u>smile</u>] |
| (4) <u>size</u> | [ア <u>impress</u> イ <u>news</u> ウ <u>price</u> エ <u>useful</u>] |
| (5) <u>close</u> | [ア <u>among</u> イ <u>dot</u> ウ <u>soft</u> エ <u>stone</u>] |

配点 10点 (各2点)

正解 (1) ア (2) ウ (3) ア (4) イ (5) エ

<抽出答案における【1】小問別正答率(%)>

学科・人数 小問	全体 3,158	普通科 2,815	総合学科 125	商業科系 56	家庭科系 72	英語科系 18	他の学科 72
(1) <u>head</u>	48.5	42.4	44.5	28.8	23.2	16.7	26.4
(2) <u>character</u>		36.7	38.9	18.4	19.6	12.5	15.3
(3) <u>winter</u>		67.7	70.4	45.6	55.4	37.5	40.3
(4) <u>size</u>		32.2	34.0	14.4	12.5	26.4	12.5
(5) <u>close</u>		63.6	65.3	45.6	62.5	48.6	40.3

本年度は、小問(1)、(3)、(5)を母音に関する問題、(2)、(4)を子音に関する問題とした。本問における調査校全体の抽出答案による正答率(以下、調査校全体の正答率)は48.5%であった。

以下、平均点順位が中位にある全日制課程普通科生徒100名の答案(分析答案)を抽出して、小問別に誤答分析を試みた。したがって、分析答案による誤答数は調査校全体の抽出答案による誤答率とは異なる。なお、誤答分析に用いた分析答案は、設問【2】以降も同様の方法で抽出した。

<分析答案による誤答数>

小問	誤答数	記号	発音	各誤答数	小問	誤答数	記号	発音	各誤答数
(1) <u>head</u> [e]	66	ア	正答 <u>already</u>	/	(4) <u>size</u> [z]	79	ア	[s]	8
		イ	[ei]	29			イ	正答 <u>news</u>	/
		ウ	[iə]	30			ウ	[s]	12
		エ	[i:]	7			エ	[s]	59
(2) <u>character</u> [k]	74	ア	[tʃ]	23	(5) <u>close</u> [ou]	34	ア	[ʌ]	18
		イ	[tʃ]	4			イ	[a]	4
		ウ	正答 <u>school</u>	/			ウ	[ɔ]	12
		エ	[tʃ]	47			エ	正答 <u>stone</u>	/
(3) <u>winter</u> [i]	38	ア	正答 <u>children</u>	/					
		イ	[ai]	14					
		ウ	[ai]	13					
		エ	[ai]	11					

<考察>

小問(1)は、-ea-の発音を問う問題で、調査校全体の正答率は42.4%であった。誤答66例のうち29例がイ great、30例がウ idea とほぼ同数であった。これは、見出し語を正しく発音できていないだけでなく、二重母音と単母音を区別していない生徒が多いように思われる。

小問(2)は、-ch-の発音を問う問題で、調査校全体の正答率は36.7%とかなり低かった。選択肢の語がすべてなじみ深い単語であることを考えると、見出し語 character の発音が分からなかったと

思われる。誤答 74 例のうち 47 例が **工 teacher** であった。-ch- に続く母音の影響を受けたようである。

小問 (3) は、-i- の発音を問う問題で、調査校全体の正答率は 67.7% と本問中最も高かった。誤答は分散しており、見出し語も含めどの語も定着率が高かった。

小問 (4) は、[s] と [z] の発音を区別する問題である。調査校全体の正答率は 32.2% と本問中最も低かった。これは、**工 useful** が動詞 **use** [ju:z] の発音に影響されて正しく認識できていないことと、正答 **イ news** の発音を日本語の「ニュース」と混同していることが考えられる。

小問 (5) は、様々な -o- の発音を問う問題で、調査校全体の正答率は 63.6% と比較的高かった。しかし、**close** を *[klo:z]、**stone** を *[sto:n] と誤って覚えていたため正答が得られた可能性も否定できない。

<指導上の留意点>

< 問題点 >

- ① 小問 (2) の結果から分かるように、日本語は「子音+母音」で音が成り立っているため、英語における子音だけの音に意識を向けることができない。
- ② 品詞が変わることによって発音に変化する語もあることに気付いていない。

< 具体的な指導例 >

教室内で行われるあらゆる活動を通して、正確な発音を身に付けさせる。

- ① 英語のスマール・トークとして「r と l の発音が違うことで引き起こされる勘違い」や「二重母音と長母音の違い」などを話題として取り上げ、生徒に意識させる。
- ② ALT を活用するなどして、正確な発音を身に付けさせる機会を増やす。例えば **use** (動詞) / **useful** / **useless** , **know** / **knowledge** や **south** / **southern** , **north** / **northern** といった派生語の発音についてはその都度確認させる。

(2) 語彙問題

出題のねらい：基本的な語彙が身に付いているかを測る。

【2】 次の(1)～(10)の文中の()内に、与えられた文字で始まる最も適当な語を一つ書きなさい。

- (1) Our school (l) has a lot of books.
- (2) English is a (l) spoken in many countries.
- (3) My (f) subject is math. It is very interesting.
- (4) Please (r) your hand if you find the answer.
- (5) People cannot live (w) water.
- (6) A: When is your (b)? I would like to give you a small present.
B: Thanks. I was born on May 5.
- (7) A: What's (w)? Are you OK?
B: I have a headache.
- (8) A: How is the (w) in London now?
B: It is raining.
- (9) A: Taro is out now. Do you want him to call you back?
B: No, but can I (l) a message?
- (10) A: How (o) do the buses come?
B: They come every 20 minutes.

配点：10点（各1点）
正解：(1) library (2) language (3) favorite (4) raise (5) without (6) birthday (7) wrong (8) weather (9) leave (10) often

<抽出答案における【2】小問別正答率（%）>

学科・人数 小問	全体 3,158	普通科 2,815	総合学科 125	商業科系 56	家庭科系 72	英語科系 18	他の学科 72
(1) library	51.1	54.0	22.4	30.4	26.4	88.9	18.1
(2) language	35.4	38.2	12.8	14.3	8.3	38.9	8.3
(3) favorite	66.8	69.0	48.0	57.1	47.2	77.8	36.1
(4) raise	26.1	27.7	11.2	16.1	11.1	44.4	9.7
(5) without	40.0	43.0	15.2	14.3	13.9	61.1	8.3
(6) birthday	64.6	67.0	44.8	58.9	43.1	83.3	26.4
(7) wrong	68.6	71.1	48.8	53.6	44.4	77.8	37.5
(8) weather	62.0	64.4	46.4	46.4	38.9	66.7	29.2
(9) leave	67.6	70.3	48.0	50.0	43.1	88.9	29.2
(10) often	58.0	61.5	34.4	25.0	23.6	94.4	13.9

調査校全体の正答率は54.0%であった。

<過年度類題正答率（%）>

小問	22年度正答率	過年度正答率（出題年度）		
(1) library	51.1	49.9（18年度）	40.0（12年度）	35.6（7年度）
(2) language	35.4	55.8（20年度）	44.0（15年度）	
(3) favorite	66.8	63.3（19年度）	62.2（17年度）	
(4) raise	26.1	過年度出題なし		
(5) without	40.0	40.4（19年度）	18.0（15年度）	34.6（14年度）
(6) birthday	64.6	70.5（19年度）	69.0（6年度）	72.0（元年度）
(7) wrong	68.6	62.6（16年度）	42.6（13年度）	
(8) weather	62.0	55.2（20年度）	61.5（17年度）	42.1（14年度）
(9) leave	67.6	68.7（19年度）	67.3（16年度）	
(10) often	58.0	63.7（18年度）	47.6（15年度）	

<分析答案による誤答数と主な誤答例>

小問	誤答数	つづりの誤り（数）	その他の誤り（数）	無答
(1) library	55	11 : librally (4), libruary (2) 等	26 : like (7), look (3), large (2) 等	18
(2) language	84	17 : langage (6), langerge (2) 等	45 : lot (14), little (5), listen (4) 等	22
(3) favorite	36	21 : favorit (9), faborite (1) 等	15 : father (8), friend (3) 等	0
(4) raise	78	6 : rase (4), raze (2)	66 : rise (25), right (13), read (11) 等	6
(5) without	74	2 : whithout (1), withut (1)	52 : winter (9), want (7), warm (5) 等	20
(6) birthday	39	15 : barthday (3), bathday (2) 等	21 : born (5), brother (3), bag (2) 等	3
(7) wrong	31	7 : wlong (2), wong (1) 等	9 : worry (2), want (1), warm (1) 等	15
(8) weather	42	33 : wether (22), wather (2) 等	6 : what (2), want (1), with (1) 等	3
(9) leave	26	1 : leaven (1)	21 : live (5), listen (3), late (2) 等	4
(10) often	48	3 : ofen (2), offten (1)	39 : old (21), o'clock (5), over (4) 等	6

<考察>

小問 (1)から(5) は文中の適語補充問題, (6)から(10) は対話文中の適語補充問題となっている。

小問 (1) **library** の調査校全体の正答率は 51.1%であった。誤答 55 例のうち、「その他の誤り」と「無答」を合わせると 44 例あり、文意が理解できず、正答を思い付かなかったようだ。

小問 (2) **language** の調査校全体の正答率は 35.4%と、過年度と比較して非常に低い結果となった。「その他の誤り」と「無答」を合わせると 67 例に上り、過去分詞の後置修飾を含んだ文意を把握することが難しかったようだ。

小問 (3) **favorite** の調査校全体の正答率は 66.8%であった。誤答 36 例のうち、「つづりの誤り」が 21 例を占めた。単語を思い浮かべることができるが、正確につづることができなかつたと思われる。

小問 (4) **raise** の調査校全体の正答率は 26.1%と、本問中最も低かつた。誤答 78 例のうち、自動詞 **rise** を答えた例が 25 例で、突出して多かつた。また、**right** など文意を無視した誤答も目立ち、動詞 **raise** の定着率は低いと言える。

小問 (5) **without** の調査校全体の正答率は 40.0%であった。誤答 74 例のうち「つづりの誤り」は 2 例のみであった。「その他の誤り」が 52 例あつたことに加え、「無答」も 20 例と多く、**without** という語を思い付くことができなかつた。

小問 (6) **birthday** の調査校全体の正答率は 64.6%で、過年度と比較するとやや下がつた。誤答 39 例のうち、「つづりの誤り」が 15 例あり、意味は分かつていても正確につづることができなかつたと思われる。

小問 (7) **wrong** の調査校全体の正答率は 68.6%で本問中最も高く、過年度と比較してもやや上がった。出題の形式もほぼ同じであつたことを考慮すると、**What's wrong?** という表現は比較的定着してきつたようである。

小問 (8) **weather** の調査校全体の正答率は 62.0%であった。(b) の応答に、“**It's raining.**” とあるので、**weather** と結び付きやすかつたのではないかと思われる。

小問 (9) **leave** の調査校全体の正答率は 67.6%であった。過年度とほぼ同じ正答率であり、**leave a message** という表現の定着率に大きな変化はないと考えられる。

小問 (10) **often** の調査校全体の正答率は 58.0%であった。誤答 48 例のうち、**How old** と考えたものが 21 例と最も多かつた。**every 20 minutes** の意味や用法が分からないため正答に結び付かなかつたと思われる。

<指導上の留意点>

<問題点>

- ① 小問 (3), (6), (8) に見られるように、なじみのある単語であっても、正確につづることができない。
- ② 小問 (2), (4) に見られるように、文脈や文構造を考えない解答が多い。

<具体的な指導例>

- ① 発音指導を丁寧に行つたり、習つた語彙を用いて英文を書く機会を増やしたりすることによって、語彙の定着を図る。
- ② 語彙の定着を図るために、具体的な使用例を示しながら、スキットを作らせたり、会話練習をさせたりして、実際に活用させる。

(3) 文法・語法問題

出題のねらい：機能語の働きと基本的な文法事項の理解度を測る。

【3】 次の(1)～(5)がそれぞれ正しい文になるように、ア～エから最も適当な語(句)を選び、記号で答えなさい。

- (1) Tom visited Kyoto (ア during イ since ウ when エ while) the summer vacation.
 (2) I enjoyed (ア to watch イ watch ウ watched エ watching) the baseball game very much.
 (3) The girls (ア take イ taken ウ taking エ took) pictures by the tree are my friends.
 (4) A: Is Ken doing his work?
 B: No. He has (ア already イ always ウ ever エ yet) finished it.
 (5) A: (ア How イ What ウ When エ Why) do you have to go home so soon?
 B: To finish my homework before dinner.

配点：10点(各2点)

正解 (1) ア (2) エ (3) ウ (4) ア (5) エ

<抽出答案における【3】小問別正答率(%)>

学科・人数 小問	全 体 3,158	普 通 科 2,815	総合学科 125	商業科系 56	家庭科系 72	英語科系 18	他の学科 72
(1) during	70.1	72.4	52.8	55.4	50.0	94.4	34.7
(2) watching	84.7	86.3	76.8	73.2	73.6	88.9	52.8
(3) taking	67.2	51.2	28.8	33.9	33.3	61.1	34.7
(4) already	76.9	78.6	63.2	73.2	56.9	94.4	54.2
(5) Why	54.9	57.5	34.4	35.7	13.9	77.8	37.5

調査校全体の正答率は67.2%であった。

<過年度類題正答率(%)>

小問	22年度正答率	過年度正答率(出題年度)
(1) 前置詞 during の用法	70.1	68.1(20年度) 59.4(13年度)
(2) enjoy + 動名詞の用法	84.7	74.4(19年度) 79.1(9年度)
(3) 現在分詞の用法(後置修飾)	49.2	81.3(16年度) 78.5(15年度)
(4) 副詞 already の用法	76.9	72.3(13年度) 77.2(6年度)
(5) 疑問詞 why の用法	54.9	56.7(19年度) 47.3(15年度)

<分析答案による誤答数>

小問	誤答数	ア	イ	ウ	エ	無答
(1) during	29	正答	8	14	7	0
(2) watching	10	7	2	1	正答	0
(3) taking	59	5	44	正答	10	0
(4) already	13	正答	2	5	6	0
(5) Why	53	3	14	35	正答	1

<考察>

小問(1)は、前置詞 during を選ぶ問題である。調査校全体の正答率は70.1%とおおむねよくできていた。誤答29例のうち14例がウ when であった。これは、when が接続詞であることを考慮せずに、「夏休みの時」という意味だけで選んだためであると思われる。

小問(2)は、動詞の目的語となる watching を選ぶ問題である。調査校全体の正答率は84.7%と本問中最も高かった。enjoy -ing の用法はよく理解されている。

小問(3)は、後置修飾の現在分詞 **taking** を選ぶ問題である。調査校全体の正答率は 49.2%と本問中最も低かった。誤答 59 例のうち 44 例が **イ taken** であった。これは、文中の前置詞 **by** を受動態の動作主を表す **by** と混同したためであると思われる。

小問(4)は、現在完了の文に用いる副詞 **already** を選ぶ問題である。調査校全体の正答率は 76.9%とよくできていた。

小問(5)は、疑問詞 **Why** を選ぶ問題である。調査校全体の正答率は 54.9%と小問(3)に次いで低かった。誤答 53 例のうち 35 例が **ウ When** であった。これは、**B** の応答の中に **before dinner** という表現があり、文脈を理解せずにそれを尋ねるための疑問詞を選んでしまったためであると思われる。

<指導上の留意点>

<問題点>

小問(3)に見られるように、後置修飾における現在分詞と過去分詞の使い分けができていない。

<具体的な指導例>

修飾する語と修飾される語の関係を理解させ、その文構造を用いて写真やイラストを説明させるなど、実際のコミュニケーション活動で使用する機会を設ける。

(4) 文法・表現問題

出題のねらい：基本的な文法事項の運用能力を測る。

【4】 次の(1)～(5)のアとイの文の内容がほぼ同じになるように、()内に最も適当な語を一つずつ書きなさい。

- (1) ア You must not be late for school.
イ () be late for school.
- (2) ア English is easier than math for me.
イ Math is ()() than English for me.
- (3) ア My father became sick last Sunday. He is still sick.
イ My father ()() sick since last Sunday.
- (4) ア She cannot play the guitar.
イ She doesn't know ()() play the guitar.
- (5) ア The writer of this book is Natsume Soseki.
イ This book was ()() Natsume Soseki.

配点：15点（各3点，部分点なし）

正解 (1) (Don't / Never) (2) (more)(difficult) (3) (has)(been)
(4) (how)(to) (5) (written)(by)

<抽出答案における【4】小問別正答率(%)>

学科・人数	全 体	普 通 科	総合学科	商業科系	家庭科系	英語科系	他の学科
小問	3,158	2,815	125	56	72	18	72
(1) Don't/ Never	70.1	72.4	52.8	55.4	50.0	94.4	34.7
(2) more difficult	84.7	86.3	76.8	73.2	73.6	88.9	52.8
(3) has been	67.2	49.2	51.2	28.8	33.9	33.3	61.1
(4) how to	76.9	78.6	63.2	73.2	56.9	94.4	54.2
(5) written by	54.9	57.5	34.4	35.7	13.9	77.8	37.5

調査校全体の正答率は 66.8%であった。

<過年度類題正答率 (%) >

小問	22年度 正答率	過年度正答率 (出題年度)
(1) 否定の命令文 You must not ~ → (Don't) ~	72.1	43.9 (16年度) (Don't) (be) late again. 72.1 (14年度) (Don't) eat lunch here.
(2) 比較級 A is easier than B. → B is (more) (difficult) than A.	66.9	59.1 (19年度) This book is easier than that one. → That book is (more) (difficult) than this one.
(3) 現在完了	41.2	54.7 (10年度) Ann became sick three days ago. She is still sick now. → Ann (has) (been) sick for three days.
(4) 疑問詞 + to 不定詞	77.2	73.2 (15年度) 同一問題

<分析答案による誤答数と主な誤答例>

小問	誤答数	誤答例 (数)	無答
(1) Don't	21	Will (4), Have (3), Must (2), No (2), To (2), その他 (6)	2
(2) more difficult	28	not easier (7), more difficult (2), more easy (2), the easy (2), to easy (2), その他 (10)	3
(3) has been	67	has became (14), has become (8), became still (6), is still (4), その他 (31)	4
(4) how to	11	have to (2), その他 (9)	0
(5) written by	17	written by (3), who wrote (2), wrote by (2), その他 (9)	1

<考察>

小問(1)は、禁止の意味を表す否定文 You must not ~ を、Don't で始まる否定の命令文で表現する問題である。調査校全体の正答率は 72.1%であり、否定の命令文 Don't ~ の形は定着しているようである。平成 16 年度は、Don't be を答えさせる問題であったのに対し、本年度は Don't だけを答えさせる問題であったため、答えやすかったと思われる。

小問(2)は、比較級に関する問題である。調査校全体の正答率は 66.9%であった。誤答 28 例のうち、difficult のつづりの誤りが 8 例あり、比較級についてはおおむね定着している。

小問(3)は、ある状態が続いていることを現在完了を用いて表す問題である。調査校全体の正答率は 41.2%と本問中最も低かった。誤答 67 例のうち、36 例は be ではなく become を用いたものであった。多くの生徒は現在完了を用いて表現しようとしているが、become と be を区別して用いることができなかったようである。なお、become の過去分詞を正しく書けていない誤答も目立った。

小問(4)は、how to を用いた表現に関する問題である。調査校全体の正答率は 77.2%と本問中最も高く、よく定着している。

小問(5)は、受動態を用いた表現に関する問題である。調査校全体の正答率は 76.6%と本問中二番目に高く、受動態の形は身に付いている。誤答 17 例のうち 9 例は write の過去分詞のつづりの誤りであった。

<指導上の留意点>

<p><問題点> 小問(3), (5)に見られるように, 現在完了や受動態に関する知識はありながら, 動詞を適切に用いることができない。</p>	
<p><具体的な指導例> 類題の例文を用いてペア・ワークをするなど, 何度も自分で表現することにより動詞の適切な使い方を身に付けさせる。</p>	
<p>【例】(3) How long have you known ... ?</p>	<p>I have known ... since ~ .</p>
<p>How many times have you seen ... ?</p>	<p>I have seen ... ~ .</p>
<p>(5) Who made ... ?</p>	<p>... was made by ~ .</p>
<p>Who wrote ... ?</p>	<p>... was written by ~ .</p>

(5) 口語表現問題

<p>出題のねらい：基本的な口語表現の理解度を測る。</p>													
<p>【5】 次の英文は電話での対話です。(1)～(5)に入る最も適当な表現を下のア～コから選び, 記号で答えなさい。ただし, 各表現は一度しか使えません。</p>													
<p>Mike: Hello. (1) Emi : This is Emi. Mike: Hi, this is Mike. Mike Young. Do you remember me? Emi : Of course. (2) Mike: I've just come to Japan. I'm calling from Narita Airport. Emi : Are you? Mike: Well, if you have time, I want to see you. Emi : (3) I will be free this Saturday. Mike: Oh, that's too bad. I'll have a meeting on that day. Emi : How about Monday night? Mike: I'm going to visit Korea next week. I don't think we can meet then. Emi : (4) But I am glad to hear your voice again. Mike: Me, too. See you again. Emi : (5)</p>													
<p>(注) Narita Airport 「成田空港」</p>													
<table border="1"> <tr> <td>ア Oh, I'm sorry to hear that.</td> <td>イ May I speak to Emi?</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ウ Why did you come here?</td> <td>エ That's great.</td> <td>オ Can I help you, Emi?</td> </tr> <tr> <td>カ Where are you now?</td> <td>キ Oh, did you?</td> <td>ク You are welcome.</td> </tr> <tr> <td>ケ When will the meeting be over?</td> <td>コ Bye for now.</td> <td></td> </tr> </table>		ア Oh, I'm sorry to hear that.	イ May I speak to Emi?		ウ Why did you come here?	エ That's great.	オ Can I help you, Emi?	カ Where are you now?	キ Oh, did you?	ク You are welcome.	ケ When will the meeting be over?	コ Bye for now.	
ア Oh, I'm sorry to hear that.	イ May I speak to Emi?												
ウ Why did you come here?	エ That's great.	オ Can I help you, Emi?											
カ Where are you now?	キ Oh, did you?	ク You are welcome.											
ケ When will the meeting be over?	コ Bye for now.												
<p>配点：10点(各2点) 正解 (1) イ (2) カ (3) エ (4) ア (5) コ</p>													

調査校全体の正答率は76.7%であった。

<抽出答案における【5】小問別正答率(%)>

学科・人数	全 体	普 通 科	総合学科	商業科系	家庭科系	英語科系	他の学科	
小問	3,158	2,815	125	56	72	18	72	
(1) May I speak to Emi?	76.7	91.0	92.1	89.6	85.7	75.0	88.9	72.2
(2) Where are you now?		79.1	80.7	68.8	73.2	58.3	88.9	59.7
(3) That's great.		57.1	58.9	44.0	46.4	37.5	72.2	36.1
(4) Oh, I'm sorry to hear that.		64.5	66.3	49.6	51.8	47.2	94.4	41.7
(5) Bye for now.		92.0	92.3	92.8	89.3	93.1	94.4	81.9

<分析答案による誤答数>

小問	誤答数	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	無答
(1) May I speak to Emi?	7	0	正答	0	0	3	0	3	0	0	0	1
(2) Where are you now?	12	0	0	4	0	0	正答	3	1	3	0	1
(3) That's great.	42	12	0	5	正答	0	1	8	2	13	0	1
(4) Oh, I'm sorry to hear that.	38	正答	0	2	6	0	2	17	3	4	3	1
(5) Bye for now.	4	0	0	0	0	0	0	0	3	0	正答	1

<考察>

小問(1)は、電話をかけた Mike が「Emi さんはいますか」と尋ねる場面である。調査校全体の正答率は 91.0%と非常に高かった。電話の場面における May I speak to ～ ? という表現はよく定着している。

小問(2)は、電話をかけてきた Mike に Emi が「今どこにいるの」と尋ねる場面である。調査校全体の正答率は 79.1%と高かった。次に続く Mike の I'm calling from Narita Airport. から容易に判断できたと思われる。

小問(3)は、「時間があれば会いたい」と言う Mike に対して、Emi が同意する場面である。調査校全体の正答率は 57.1%と本問中最も低く、誤答は分散していた。前後のせりふと結び付けることができなかったと考えられる。

小問(4)は、Mike に会えないことになって、Emi が残念に思う気持ちを伝える場面である。調査校全体の正答率は 64.5%であった。誤答 38 例のうち 17 例は、キ Oh, did you? であった。これは前文の内容から容易に判断したためと思われる。

小問(5)は、電話を切る時の別れのあいさつをする場面である。調査校全体の正答率は 92.0%と本問中最も高かった。別れ際の場面における Bye for now. という定型表現はよく定着している。

<指導上の留意点>

<問題点>

電話の場面における定型表現やあいさつの表現は定着しているが、小問(3)、(4)のように、話し手の意図を読み取りながら、対話の展開を正しく理解して応答することが苦手な生徒が見られる。

<具体的な指導例>

生徒の身近な暮らしや社会での暮らしにかかわる場面、多様な手段を通じて情報などを得る場面等を設定し、自分の意見や気持ちを相手に伝えたり、相手の発言に的確に応答したりするコミュニケーション活動を工夫する。

(6) 整序・作文問題

出題のねらい：単語を並べ替えて正しい英文を構成する力，基本的な英語表現能力を測る。

【6】 次の(1)～(3)の日本語の意味を表すように，下に与えられた語を全部用いて，英文を作りなさい。また，(4)は下線部(A)と(B)の日本語を英文に直しなさい。

- (1) 彼が誰なのか私は知りません。
[don't / he / I / is / know / who]
- (2) その質問に答えるのは私には簡単でした。
[answer / easy / for / it / me / question / the / to / was]
- (3) 彼女が去年書いた本はとても人気があります。
[book / is / last / popular / she / the / very / wrote / year]
- (4) 「あなたはどんなスポーツが好きですか。」
「(A)私は水泳が一番好きです。」
「そうですか。(B)あなたは沖縄(Okinawa)へ行ったことがありますか。海がきれいですよ。」
「いいですね。いつかそこで泳ぎたいものです。」

配点 15点 (各3点 部分点なし)

- 正答 (1) I don't know who he is.
(2) It was easy for me to answer the question.
(3) The book she wrote last year is very popular.
(4) (A) I like swimming [the] best.
(4) (B) Have you [ever] been to Okinawa.

<抽出答案における【6】小問別正答率(%)>

学科・人数 小問	全 体 3,158	普 通 科 2,815	総合学科 125	商業科系 56	家庭科系 72	英語科系 18	他の学科 72		
(1)	56.3	69.2	71.2	58.4	53.6	41.7	45.8		
(2)		65.7	68.8	48.0	42.9	27.8	22.2		
(3)		37.1	40.0	14.4	14.3	4.2	55.6	9.7	
(4)		(A)	36.5	38.9	20.0	21.4	6.9	55.6	9.7
		(B)	72.8	75.2	56.8	58.9	48.6	94.4	38.9

小問(1)～(3)を整序問題，小問(4)を日本語の内容を英語で表現させる形式とした。調査校全体の正答率は56.3%であった。

<過年度類題正答率>

小 問	22年度正答率	過年度正答率 (出題年度)
(1) 間接疑問文	69.2	59.8 (20年度) Do you know who he is? 78.9 (16年度) I don't know where she bought the camera.
(2) 形式主語構文 It is～for人to不定詞	65.7	76.3 (19年度) It is easy for me to learn English. 66.1 (15年度) It is important for you to learn history.
(3) 後置修飾 (接触節)	37.1	79.3 (19年度) This is the book I bought yesterday. 30.0 (16年度) The woman you met at the party is my aunt.
(4) (A) 最上級	36.5	38.6 (16年度) I like tea (the) best. 46.7 (10年度) I like this song (the) best.
(4) (B) 現在完了	72.8	56.6 (15年度) Have you (ever) read this book?

<分析答案による誤答数>

小問	分析答案における誤答数
(1)	26
(2)	29
(3)	85
(4) (A)	80
(4) (B)	21

<考察>

小問(1)は、間接疑問の用法を理解しているかを確認する問題である。調査校全体の正答率は69.2%であった。

小問(1) 誤答例

I don't know who is he.	19例
-------------------------	-----

誤答26例のうち19例が、間接疑問の語順の間違いであった。

小問(2)は、It is~for 人 to do. の構文を理解しているかを確認する問題である。調査校全体の正答率は65.7%であった。

小問(2) 誤答例

① It was easy for me to the question answer.	5例
② It was easy for me to question the answer.	2例
③ It was easy for me the question to answer.	2例

誤答は多岐にわたった。誤答29例のうち9例はIt was easy for me toまでは書けていることも考え合わせると、形式主語Itの文構造は比較的定着していると言えよう。

小問(3)は、後置修飾(接触節)の構文を理解しているかを確認する問題である。調査校全体の正答率は37.1%であった。

小問(3) 誤答例

① The book is very popular she wrote last year.	31例
② She wrote the book last year is very popular.	22例
③ She wrote the book is very popular last year.	12例

誤答のうち、特に多かったものが①と②である。いずれも修飾・被修飾の関係が明確に理解できず、「彼女が去年書いた」と「本はとても人気がある」という意味の英文を単に結びつけたと思われる。平成19年度の類題This is the book I bought yesterday.の正答率が79.3%であったことと比べると、主語における後置修飾(接触節)を理解できない生徒が多い。

小問(4)(A)は比較表現のうち、最上級の用法を問うものである。調査校全体の正答率は36.5%であった。

小問(4)(A) 誤答例

① I like swim the best.	11例
② I like the best swim.	8例
③ I like the best swimming.	4例

「水泳」をswimmingと正しく英語にできなかった誤答が多かった。また副詞の最上級を正しく理解できていないように思われる。

小問(4)(B)は、経験を尋ねる文を作ることができるかを確認する問題である。調査校全体の正答率は72.8%と高かった。

小問(5) 誤答例

Have you been Okinawa?	2例
------------------------	----

「～したことがありますか」と経験を尋ねる現在完了の表現はよく定着していると思われる。

<指導上の留意点>

<過年度との比較>

小問(3)のように、主語における後置修飾(接触節)を理解できない。

<具体的な指導例>

定着させたい表現をTeacher Talkで多用するなどして、生徒がインプットできる機会を増やす。

Teacher Talkの例："Yesterday I went to the park and met a girl there.
The girl I met was walking with a dog... "

教科書の英語素材を基に既習表現を練習する場面を設定し、定着させた上で生徒に書かせたり言わせたりする。その際に教員が手本を示したり訂正したりしながら、より正確な英語を身につけさせるよう工夫する。さらに、生徒が英語学習への意欲を失うことがないように、誉める英語を大いに使っていきたい。

(7) 長文読解問題

出題のねらい：比較的長い英文を読み取る力を測る。

【7】次の英文を読んで、あとの問いに答えなさい。

There was a man who loved his little boy very much. Every day after work, the man came home and played with the little boy. ア

One day, when the man was working in his office, he was asked to do a lot of work, but he could not finish it. イ He thought, "I have to work at home. I can't play with my little boy this evening." He wanted to give the boy (1) something to make him busy. ウ He found an old book with a large world map on the cover. Then he got (2) an idea. He tore off the map, and cut it up into small pieces. エ

When he got home, the little boy came to him and asked him to play. The man said to him, "I am sorry. I have a lot of work to do this evening, so I can't play with you now." The boy looked (3). Then he took the little boy into the dining room. He showed the small pieces of the map, and explained, "You can make a world map with these pieces. When you finish it, I will stop working and we can play together." The boy looked at the small pieces of paper on the table. Then he smiled and said, "OK, I will try." There were so many pieces of paper and the boy didn't know much about the world. The man thought, "(4) It will take some time."

Only five minutes later, the boy came to the man and said, "I have finished it!" The man was surprised and said, "(5) Let's go and see." In the dining room, he found a beautiful world map on the table. The man said, "How did you do that?" The boy said, "It was easy. There was a picture of a woman on the back of the paper."

(注) cover 「表紙」 tore off ～ 「～を破り取った」

cut ～ up into small pieces 「～を細かく切った」 back 「裏側」

問1 下線部(1) something to make him busy の具体例として本文中に出てくるものは何か。最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。

ア map イ office ウ table エ work

問2 下線部(2) an idea の内容に関して最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。

- ア 息子といっしょに家で遊ぶための考え
- イ 息子に仕事の手伝いをさせるための考え
- ウ 息子に一人で何かさせておくための考え
- エ 息子に世界中の古い本を読ませるための考え

問3 空所(3)に入る語として最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。

ア careful イ excited ウ happy エ sad

問4 下線部(4)のように父親が思った時の気持ちとして最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。

- ア I will help the little boy. イ The little boy will enjoy it.
- ウ Children should work hard. エ I can do my work.

問 8	55	8	8	正答	39				0
問 9	60	正答	16	6	18	15	正答	5	0

<考察>

問 1 は、something to make him busy が具体的に何を指すかを問う問題である。調査校全体の正答率は 47.1%と低く、誤答 73 例のうち、**工 work** を選んだ誤答が 64 例と顕著であった。これは、前文の「家で仕事をしなければならない」という内容に引きずられ、下線部(1)の **make him busy** を「お父さんが仕事で忙しい」と誤って理解したためと思われる。

問 2 は、父親が本の表紙にある世界地図を見て思い付いたことを問う問題である。調査校全体の正答率は 70.8%と高かった。自分の息子に地図を使って一人で遊ばせようという父親の意図はおおむね理解できているようだ。

問 3 は、父親と一緒に遊べないとわかった時の息子の気持ちを問う問題である。調査校全体の正答率は 77.5%と本問中最も高かった。直前に **I can't play with you now.** とあるので、答えやすかったと思われる。

問 4 は、**It will take some time.** と思ったときの父親の気持ちを問う問題である。調査校全体の正答率は 42.7%と本問中最も低く、誤答 64 例のうち、**イ The little boy will enjoy it.** を選んだ誤答が 49 例と大半を占めていた。これは、言葉の裏にある、時間稼ぎをしてその間に仕事を終えようという父親の真意を読み取れなかったためと思われる。

問 5 は、息子があまりにも早く地図を完成させたときの父親の心情を問う問題である。調査校全体の正答率は 61.0%で、誤答 47 例のうち、**ウ I'm glad to hear that.** を選んだ誤答が 32 例と非常に多かった。思惑がはずれて驚いている父親の気持ちを正確に理解できなかったようである。

問 6 は、**He looked around the office.** を本文中の適切な位置に入れる問題である。調査校全体の正答率は 68.3%であった。**ウ** の直後の文 **He found an old book with a large world map on the cover.** を手掛かりにして答えることができたと思われる。

問 7 は、息子が世界地図を短い時間で完成させた理由を問う問題である。調査校全体の正答率は 68.0%であった。この物語の結末を問う設問であったが、多くの生徒は物語の展開を正確にとらえているようだ。

問 8 は、この物語の内容に適した題を選ぶ問題である。調査校全体の正答率は 49.6%であり、誤答 55 例のうち、**工 A strange map** を選んだ誤答が 39 例と大半を占めていた。これは、文中で **map** という語が何度も使用されており、**strange** の意味を考えずに選んだためと思われる。

問 9 は、本文の内容に一致するものを選択する問題である。調査校全体の正答率は、**ア**が 66.9%、**カ**が 71.4%とよくできていた。大まかな内容は理解できているようだ。

<指導上の留意点>

<p><問題点></p> <p>問 4, 5に見られるように、文章に込められている書き手の意図や登場人物の心情まで深く読み取ることができない。</p>
<p><具体的な指導例></p> <p>登場人物の行動を時系列で整理させ、物語の展開を明確にとらえさせる。さらに、書き手の意図や登場人物の心情を推測させるような発問を授業に取り入れ、グループで話し合わせるなどの方法を用いて内容理解を深める。</p>

(8) 聞き取り問題

問題のねらい：英語の聞き取りによる理解度を測る。

【8】 この問題は、先生又は放送の指示に従い、正しいものには○、そうでないものには×を付けなさい。正しい答えはそれぞれ一つしかありません。

Ben: What shall we do this afternoon?

Kate: I want to go to see a new movie.

Ben: But I hear many people are waiting to see the movie. We will have to wait for a long time.

Kate: How about going shopping?

Ben: I don't like shopping. I want to go swimming. How about you?

Kate: I don't want to go swimming. The water is still too cold.

Ben: Well, let's stay at home and watch videos.

Kate: Again? We have already seen all our videos many times.

Ben: Then, how about going out to buy new ones?

Kate: OK. But I'm hungry now.

Ben: Well, let's eat hamburgers first, and then go to buy some new videos.

Kate: Great! After we watch the videos, we can watch the evening TV news.

Ben: And then it will be time to cook dinner together.

Question 1 Will Ben and Kate go to see a new movie?

- (a) Yes, they do. (b) No, they don't.
(c) Yes, they will. (d) No, they won't.

Question 2 Does Ben like shopping?

- (a) Yes, he does. (b) No, he doesn't.
(c) He likes shopping. (d) He likes movies.

Question 3 Who wants to go swimming?

- (a) Ben does. (b) Ben and Kate do.
(c) Kate does. (d) No, they don't.

Question 4 What will Ben and Kate do first?

- (a) They will go swimming. (b) They will eat hamburgers.
(c) They will watch new videos. (d) They will go out to buy new videos.

Question 5 What will Ben and Kate do after watching the evening TV news?

- (a) They will go shopping. (b) They will eat hamburgers.
(c) They will cook dinner. (d) They will watch new videos.

配点 10点 (各2点)

正答 Question 1 a (×) b (×) c (×) d (○) Question 2 a (×) b (○) c (×) d (×)

Question 3 a (○) b (×) c (×) d (×) Question 4 a (×) b (○) c (×) d (×)

Question 5 a (×) b (×) c (○) d (×)

本問は、会話文を聞いて、その内容をどの程度聞き取れたかを確認する問題である。問題の提示の仕方は「会話文→質問→会話文→質問→解答選択肢」の順とした。

本年度の内容は、Ben と Kate が午後の過ごし方について話し合っている会話である。問題文の語数は131語である。質問は Yes 又は No で答える疑問文を2問 (Question 1, 2) 及び疑問詞を使った疑問文を3問 (Question 3, 4, 5) とした。読みの速さは、例年同様、話し言葉の自然な速さとし、解答は、すべての選択肢に○又は×を付けさせる形式とした。本問の調査校全体の正答率は50.6%であった。

<抽出答案における【8】小問別正答率(%)>

学科・人数	全体	普通科	総合学科	商業科系	家庭科系	英語科系	他の学科
小問	3,158	2,815	125	56	72	18	72

Question 1	50.6	32.4	34.1	12.8	25.0	22.2	50.0	12.5
Question 2		37.5	37.9	32.8	39.3	36.1	50.0	26.4
Question 3		68.8	70.3	57.6	62.5	62.5	66.7	43.1
Question 4		60.6	62.2	44.0	41.1	48.6	66.7	54.2
Question 5		53.5	55.6	37.6	35.7	33.3	61.1	34.7

<分析答案による誤答数>

小問	誤答数	(a)	(b)	(c)	(d)
Question 1	77	11	8	58	正答
Question 2	62	56	正答	3	3
Question 3	40	正答	14	14	12
Question 4	46	7	正答	17	22
Question 5	64	4	17	正答	43

<考察>

Question 1 は、「Ben と Kate は新しい映画を見に行くか」を問うものである。調査校全体の正答率は 32.4% で本問中最も低かった。誤答 77 例のうち 58 例が (c) Yes, they will. であった。質問が will で始まっていることは聞き取ることができたようである。しかし、会話の中に明確な否定の言葉がなかったため判断を誤ったと思われる。

Question 2 は、「Ben は買い物が好きか」を問うものである。調査校全体の正答率は 37.5% と低かった。正答の(b) No, he doesn't. と誤答の(a) Yes, he does. を合わせると 94 例になり、Question 1 と同様、質問が Does で始まっていることは聞き取ることができたようである。会話の中で Ben が言った I don't like shopping. の don't が聞き取れなかったと考えられる。

Question 3 は、「誰が泳ぎに行きたいか」を問うものである。調査校全体の正答率は 68.8% と本問中最も高かった。会話の中で Ben が I want to go swimming. と言っているのだから、答えやすかったようだ。

Question 4 は、「Ben と Kate は初めに何をするか」を問うものである。調査校全体の正答率は 60.6% であった。誤答は(c) They will watch new videos. (17 例) と (d) They will go out to buy new videos. (22 例) が多かった。これは二人が何をするかを聞き取ることができたが、前後関係を表す first, then, after などに着目して二人の行動を整理して理解することができなかつたためであろう。

Question 5 は、「夕方のテレビニュースを見た後、Ben と Kate が何をするか」を問うものである。調査校全体の正答率は 53.5% であった。誤答 64 例のうち 43 例が(d) They will watch new videos. であった。Question 4 と同様に、二人の行動を順序立てて整理することができなかつたようだ。

<指導上の留意点>

<問題点>

Question 4,5 のように、前後関係を表す言葉を手掛かりにして、聞き取った情報を整理して理解することができない。

<具体的な指導例>

リスニングでは、聞き取れた個々の情報を関連付けて理解することが大切である。その際、使われる接続詞まで意識させる。Q & A の中に時の流れを表す接続詞 (after, before など) を含め、内容を順序立てて理解する習慣を身に付けさせる。